



泗水小だより

学校教育目標 「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」



泗水小学校
学校だより No32
文責 芹川博文
12月22日(金)

「学校づくり」に 子どもの参加

～学校運営協議会で保健委員会発表～

「緊張したけど、大人の人たちに僕たちがやっていることを伝えられて良かった。これからもみんなが健康に過ごせるように、集計とか頑張って発表していきたい。」



上の文は、学校運営協議会の中で、保健委員会の取組を発表した代表二人の言葉です。私が子どもの頃を思うと、大人の会議に「失礼します」と入り、発表して質問に答えるなど想像もつきません。二人が「失礼しました」と出ていった後の清々しい「空気」。委員さん方から出た「頼もしいですね」「これからの学校ですね」の言葉のとおり、新しい時代の学校のあり方を感じさせるものでした。

前回の学校だよりで紹介した児童会代表委員会での「昼休み時間の長さについて」の話し合いも同様ですが、学校の中心であるべき子どもがどう思っているのかを抜きにすることなく、子ども自身が学校づくりに参加していく学校を目指しています。そのことで「自分たちの意見が反映された」「学校を自分たちでつくっていく」という主体性や自治性を育み、将来への自立（自律）へとつながっていくことでしょう。

雨にも負けず、寒さにも負けず

～自分で歩くことの大切さ～



冬休み前の1週間は、寒さも厳しく、雨や霧の朝となりました。その中を歩いて登校した児童たち。諸事情で送迎のところもあるかと思いますが、「出来ることは自分で」という積み重ねが心も体も強くし、季節や天気にも敏感になると考えます。安全に留意しながら、少しずつでも徒歩通学の児童が増えることを願っています。

親子でしめ縄づくり

～地域の方のご指導で貴重な体験～



田植えから始まった3年生の体験学習。授業参観でしめ縄づくりに挑戦しました。準備からご指導まで、今回も稲田さんには全面的にお世話になりました。おかげで貴重な体験ができました。

教室に飾られた立派なしめ縄。2024年の元旦には、3年生の各家庭に飾られることでしょう。保護者の皆様にも大変お世話になりました。

正月の「文化」を味わう

～子どもの頃の正月の思い出から～

菊鹿町で育ったからか、我が家だけだったのか、子どもの頃は様々な正月の「文化」（しきたり）がありました。

例えば、栗ばし。「縁起もんぞ。芽の出（ず）っとぞ。」という父親手作りの栗ばしは、太くて食べづらかったことを懐かしく思い出します。

母親は大みそかの夜12時ギリギリまでは忙しくするものの、「元日の1日は、掃除も洗濯も一切してはならない。料理も包丁は使わない。」という「文化」がありました。正月ぐらいは体を休める意味もあったとか。ご飯も炊かず、雑煮とおせちのみ。正直、子どもの頃は苦手でしたが。

元日は風呂にも入りませんでした。当時は風呂沸かしも、今みたいに蛇口（スイッチ?）一つでなく、薪（たきもん）を入れて焚いており、一仕事でした。

初風呂は、1月2日の朝と決まっており、その日は朝から子どもは習字を書き、ご飯と魚を朝から食べました。そう言えば、「明けまして、おめでとうございます」と正座で手をついて親（大人）と挨拶を交わすのも正月ならではのことでした。

あの頃から約50年の時が流れました。保護者や地域の皆さんにはどんな思い出がありますか。泗水やその家独特の正月「文化」があるのかもしれないですね。そして、いつの日か今の子どもたちが、「あ～、懐かしいなあ」と、正月の過ごし方を懐かしむ日が来ることでしょう。

それでは少し早いですが、今年も大変お世話になりました。皆様、よいお年をお迎えください。